Wonderware System Platform 2014 R2 Patch 01 インストール ガイド

最終更新日: 2015/5/21

このドキュメントはパッチ マネージャー ユーティリティまたはサイレント インストールを使用した Wonderware System Platform 2014 R2 へ Patch 01 を適用するための重要な情報を提供します。

Patch 01 をインストールする前に必ずお読み下さい。

この章は Patch 01 を適用するための重要な情報を含んでいます。パッチ マネージャー ユーティリティまたはサイレント インストールを実行する前にパッチ プロセスやシステムに必要な準備方法を理解することは重要です。

重要

再起動権限が必要: サーバー オペレーティング システムでは、不十分な権限でユーザーがコンピューターを再起動するのを阻止することが出来ます。パッチ インストール後、パッチ インストーラーはコンピューターの再起動を強制出来ないかもしれません。この場合、ソフトウェアのパッチ プロセスを適切に完了するために、手動でコンピューターを再起動する必要があります。

十分な時間の確保: Galaxy と提供されるライブラリの改善により過去のインストールと比較して Galaxy Patcher の実行時間が長くなる可能性があります。個々の Galaxy のパッチ時間は Galaxy の複雑さに依存して 2 ～ 3 分から 1 時間、あるいは、それ以上に変化します。Galaxy Patcher はデプロイされた Galaxy 上でのみ実行されます。未デプロイの Galaxy のために、Galaxy Patcher は IDE 内で最初に接続したとき自動的に起動され Galaxy をパッチします。

複数の Galaxy: 前回のパッチ提供では、パッチ マネージャーがノードにパッチを適用完了後、インストールされたすべての Galaxy は直ちにパッチされました。今回のパッチの提供では、デプロイされた Galaxy だけがパッチされます。未デプロイの Galaxy は IDE からそれらに最初に接続したときパッチされます。

InTouch: InTouch モダン アプリケーションは、最初に開いたときにパッチされます。パッチはモダン アプリケーション毎におおよそ 10 分必要です。その時間は Galaxy のシンボル テンプレート数に依存して前後します。

パッチの条件

パッチをインストールするためには、次の条件に合わせて下さい:

- **インストール** – このパッチをインストールする前に、Wonderware System Platform 2014 R2 がインストールされている必要があります。製品の過去バージョンの場合、最初に Wonderware System Platform 2014 R2 へアップグレードする必要があります。
- **共存性** – 1 つ以上の Wonderware System Platform 2014 R2 製品が 1 つのノードにインストールされている場合、パッチ マネージャーはそれぞれの製品へパッチを適用します。

はじめる前に

Wonderware Application Server を Patch 01 でアップデートする前に、コンピューター上で実行されているすべてのアンチウィルス プログラムを終了して下さい。

Wonderware System Platform 2014 R2 製品へこのパッチを適用して下さい。それらの製品は次を含みます:

- Wonderware InTouch 11.1（すべての言語）
- Wonderware Application Server 4.1
- Wonderware Historian 11.6
- Wonderware Historian Client 10.6
- Invensys License Manager 1.0

Windows コントロール パネル内の**プログラムの追加と削除**、または、**プログラムと機能**（使用中のオペレーティング システムに依存）で製品バージョン番号を確認出来ます。

InTouch 2014 R2（バージョン 11.1）Patch 01 と Application Server 4.1 2014 R2（バージョン 4.1）Patch 01 をインストールする前に:

- **パッチをインストールする前に、インストールされたすべての Galaxy の良好なバックアップを確保します。**Galaxy バックアップの作成方法は、ArchestrA System Management Console（以降 SMC と表記）の Galaxy Database Manager にアクセスします。Galaxy Database Manager を展開して、Galaxy を選択します。**Action** メニュー上で **Backup** をクリックします。プロンプトに従ってそれぞれの Galaxy からバックアップ操作を完了します。
- IDE がノード上にあり、リモート ノードの Galaxy Repository と接続するシステム向け：IDE と GR ノードは同じバージョンである必要があります。両方のノードにパッチ処理を行い、確実に同じバージョンにしてください。

注意：一般的なワークフローとして、GR ノードを最初にパッチを適用して、それからランタイム ノードに適用します。

- パッチ インストーラーを実行する前に、SMC の Platform Manager からプラットフォームをアンデプロイ、または、停止しなければなりません。インストールされ、実行されていれば、ArchestrA IDE、InTouch WindowMaker、そして、InTouch WindowViewer を含む、すべてのアプリケーションを終了します。
- GR ノード上で Patch 01 を適用する前に、確実にアクティブなリモート IDE セッションを切断して下さい。Patch 01 は ArchestrA に関連したプロセスがシャットダウンされることが必要で、リブートを必要とする可能性があります。
- IDE のウォーターマーク イメージ ファイルは Wonderware System Platform 2014 R2 Patch 01 のインストール中に上書きされます。カスタム ブランド イメージ ファイルを作成していた場合、バックアップして後でそれをリストアして下さい。典型的なイメージ ファイルは「IDEWatermark.png」のような .png で、以下で見ることが出来ます：
  64-bit OS：**C:\Program Files (x86)\Common Files\ArchestrA\ApplicationServer\4.1.06000\Branding**
  32-bit OS：**C:\Program Files\Common Files\ArchestrA\ApplicationServer\4.1.06000\Branding**

Historian 2014 R2（バージョン 11.6）Patch 01 をインストールする前に:

- Shut down and disable the Historian コマンドを実行します。
- 実行されていれば System Management Console（SMC）を終了します。
- パッチ インストールの完了後に、Historian をリスタートします。

Wonderware System Platform 2014 R2 Patch 01 のインストール

このセクションはパッチ マネージャーまたはサイレント インストールのどちらかで Wonderware System Platform 2014 R2 Patch 01 をインストールするための手順について説明します。

パッチのインストール

1. Wonderware System Platform 2014 R2 がインストールされたコンピューター上のフォルダーへ **WSP2014R2_Patch01.exe** をダウンロードします。
2. パッチ ファイルを解凍するために、**WSP2014R2_Patch01.exe** をダブルクリックします。**End User License Agreement（EULA）**が表示されます。
3. ライセンス 同意書に同意します。**Patch Manager** ウィンドウが表示されます。
   a. Patch Manager は可能なパッチ、関連した製品名、そして、それぞれのパッチ状況リストを表示します。
   b. プロダクトの Readme ファイルを表示するためには、製品名をクリックします。Wonderware System Platform Readme が、インストール可能な項目と関連した Readme ファイルのリストの上に表示されます。
   c. インストールしたいそれぞれのパッチのチェックボックスを選択します
   d. **Install** ボタンをクリックします。パッチの **Progress Window** が表示されます。

重要:パッチのインストール中に SMC(SMC は MMC のスナップインとして実行されています) を閉じた後でも MMC を閉じる内容のメッセージを受け取るかもしれません。この場合、タスク マネージャーを使用して、MMC プロセスを終了して下さい。

4. **Status Window** はインストールされたパッチのリストを表示します。
   a. ログ ファイルを表示するためのリンクをクリックします。
   b. **Finish** ボタンをクリックします。
5. Galaxy Patcher はデプロイされた Galaxy をパッチします。

注意:未デプロイの Galaxy は未パッチのまま残されます。

注意:パッチされた Galaxy から 未パッチの Galaxy を参照すること(マルチ Galaxy 参照)は出来ません。未パッチ Galaxy をまずパッチする必要があります。

6. 未デプロイの Galaxy をパッチするには、IDE で Galaxy へ接続します。

   未パッチの Galaxy に接続するとき、次のメッセージが表示されます:

```
Connecting to <Galaxy Name>.
Galaxy patching is in progress.
```

注意: Galaxy のパッチは数分かかります。この操作が処理中の間、ノードをシャットダウンしないでください。

7. 要求された場合、マシンをリブートします。

サイレント インストール

サイレント インストールのワークフロー:

1. レスポンス ファイルを生成します。
2. コマンド ラインからサイレント インストールを実行します。

サイレント インストールのためにレスポンス ファイルを生成する

1. 管理者として、**cmd.exe** を実行します。
2. **WSP2014R2_Patch01.exe** を含むフォルダーへワーク ディレクトリを変更します。
3. 次のコマンド ラインを実行します:**WSP2014R2_Patch01.exe /list /filename:c:\PatchCreation\response.txt**。
4. response.txt が **c:\PatchCreation フォルダー**に表示されます。
5. テキスト エディターを使用して、インストールしたいパッチのみを保持するため response.txt を編集します。

コマンド ラインからサイレント インストールを実行する

1. 管理者として **cmd.exe** を実行します。
2. **WSP2014R2_Patch01.exe** をダウンロードしたフォルダーへワーク ディレクトリを変更します。
3. いずれかの適切なコマンド ラインを実行します:
   - サイレント インストールが完了したらノードを自動的にリスタートするためには、次のコマンド ラインを実行します:
     WSP2014R2_Patch01.exe /Silent "c:\PatchCreation\response.txt"。
   - サイレント インストールが完了後、コンピューターの自動リスタートを望まない場合は、**/Silentnoreboot** オプションを使用して:
     WSP2014R2_Patch01.exe /Silentnoreboot "c:\PatchCreation\response.txt"

注意:デプロイされた Galaxy のみパッチされます。未デプロイの Galaxy はデプロイされるまで未パッチのままです。

Application Server 2014 R2 リダンダント プラットフォームへパッチを適用する

1 回に 1 つ Application Server リダンダント ペアの 2 つのパートナー ノードへパッチすることによって、ダウン タイムを削減することが出来ます。

リダンダントペアをホストしているプラットフォームはパートナー プラットフォームがパッチされていない時でさえ、デプロイされているかもしれません。また、Galaxy Repository（GR）プラットフォームはパッチされているかソフトウェア アップグレート ペンディング（SUP）状態のどちらかです。

リダンダント ペアへパッチを適用する場合、最初にスタンバイ パートナーにパッチを適用することを推奨します。この方法は、リダンダント エンジンの 1 つのフェールオーバーのみを必要とし、このようにして、処理データを収集しない期間の最小化を行います。最初のノードのパッチ後、出来るだけ早く 2 番目のパッチを行います。1 つのノードのみパッチされた時、バックアップとフェールオーバーを行うことは出来ません。両方のノードでリダンダンシーを可能にするためにパッチされる必要があります。

リダンダント ペアのパッチ操作は、リダンダント ペアの更新のための操作に似ています（アップグレードの手続きについて、*Wonderware System Platform Installation Guide* を参照して下さい）。しかしながら、パッチとアップグレードの間にはいくつかの相違点があります。GR ノードとリダンダント ペアへのパッチのために、次のテーブルにリストされたアクションに従ってください。この手続きを使用すれば、ダウン タイムが減るでしょう。この手順は初期の状態をプライマリー エンジン（E1）がアクティブであることを想定しています。この操作の結果として、すべてのノードにパッチが適用され、バックアップ エンジン（E1b）がアクティブになります。

次のテーブルは、異なるノードから構成される Galaxy Repository と 1 対のリダンダント ペアの、未パッチ（v1）からパッチ（v2）へパッチするためのワークフローを説明しています。アクション項目には陰が付いています。この例の中で、ノード B とノード C はリダンダント ペアを構成し、リダンダント アプリケーション エンジンはプラットフォームによってそれぞれのノードでホストされています。どちらのプラットフォーム（P1 または P2）がアクティブなアプリケーションをホストしているかを決定するためには Platform Manager を使用します。追加情報は *Platform Manager User's Guide* を参照して下さい。

			リダンダント ペア			
	ノード A GR Platform 0（P0）		ノード B プライマリー AppEngine（E1） プラットフォーム 1（P1）		ノード C バックアップ AppEngine（E1b） プラットフォーム 2（P2）	
ステップ	アクション	結果	アクション	結果	アクション	結果
N/A	初期状態	デプロイ状態		E1 デプロイ状態 – アクティブ		E1b デプロイ状態 – スタンバイ
1	Upload run-time changes	ランタイム時の現在値がデータベースに格納されました。				
2	パッチの適用。指示されたとき、P0 とそのエンジンのシャットダウン。	P0 とそのエンジンはデプロイ状態のままだが、シャットダウンされる。				
3	指示されたときリブート。	ソフトウェアは v2 へパッチされ、P0 のエンジンはオフスキャンで実行中。				
4	IDE を開く。	Galaxy データベースは今 v2。IDE は P0、P1、および P2 を SUP 状態で表示。				
5	P0 を Cascade deploy します。	P0 上のすべてのオブジェクトはデプロイされています。SUP 状態はそれらのオブジェクトでクリアされています。 **注意：** P0 上のオブジェクトはデプロイ前は未デプロイです。				

			リダンダント ペア			
	ノード A GR Platform 0（P0）		ノード B プライマリー AppEngine（E1） プラットフォーム 1（P1）		ノード C バックアップ AppEngine（E1b） プラットフォーム 2（P2）	
ステップ	アクション	結果	アクション	結果	アクション	結果
6					パッチを適用します。指示されたとき P2 とそのエンジンをシャットダウンします。	P2 はエンジンとオブジェクトをデプロイ状態のままホストしていますが、シャットダウンしています。
7					指示されたときリブートします。	E1b は v2 にパッチされ、オフスキャンで実行しています。
8				E1 は未デプロイ状態になります。 **注意**:リダンダントパートナーの AppEngine E1b 上にオブジェクトがデプロイされているので、E1 下のオブジェクトはデプロイ状態で表示されています。	P2 を Cascade deploy します。 **注意**:このアクションは E1 が未デプロイ状態になるので、E1 と E1b 上のオブジェクトの短いダウンタイムになります（数秒から数分の間。オブジェクト数に依存）。	E1b はアクティブになり、そのオブジェクトはオンスキャンで実行しています。 **注意**:E1b は、未パッチ E1 チェックポイント状態から開始しません。
9			パッチを適用します。指示されたとき P1 とそのエンジンをシャットダウンします。	P1 はエンジンとオブジェクトをデプロイ状態のままホストしていますが、シャットダウンしています。		
10			指示されたときリブート。	E1 は v2 へパッチされていて、オフスキャンで実行しています。		
11			P1 を Cascade deploy します。	E1 は P1 の一部としてデプロイされています。 E1 はスタンバイとして開始され、完全にアクティブなエンジンと同期します。		E1b はアクティブで動作を継続するため E1b 上のオブジェクトにダウンタイムはありません。
N/A	最終状態	デプロイ状態		E1 デプロイ状態 – スタンバイ		E1b デプロイ状態 – アクティブ

© 2015 Schneider Electric Software, LLC. All rights reserved.